

2022 年度事業報告

演劇の普及と演劇に関する助成によって、文化の向上に寄与することを目的として活動する本協会の助成事業（演劇関係者への助成金交付、海外研修、脚本家育成への助成）、普及事業（半額観劇会、演劇に関する講座開催）、調査事業、公益諸事業を行っています。

2022 年度は新型コロナウイルス感染症（以降感染症という）の減少に伴い、政府の規制緩和を背景に参加者の安全性を第一に考え、事業を取り組みました。

I 助成事業

(1) 演劇関係者への助成金交付

演劇興行及び演劇製作に寄与した団体または個人の功績を讃へ表彰する助成金交付事業は、内外の推薦を募り外部委員を含めた選考委員会が審査選考し、候補者を決定。常務理事に報告、審査の上会長に答申し、2022 年度は下記の 4 名が承認されました。授賞式 2 月 15 日（水）、東京プリンスホテルで開催いたしました定時理事会終了後、理事会出席の理事、監事の立ち合いの下、安孫子会長より 4 名の授賞者に賞状と助成金を贈呈しました。

(受賞者と授賞理由)

かねこ りょうじ
金子 良次 殿（脚本家、演出家）

1971 年劇団前進座演出部の入団。舞台の裏方としての基礎を身に付けた。劇団前進座退団後、株式会社亀屋東西社を設立。脚本家、演出家として長きに亘り商業演劇に携わり、特に歌手や俳優の座長芝居にはなくてはならない存在となる。舞台監督や演出家の人材育成にも注力し多くの演劇人を育てている。金子氏のこれまでの功績と今後更なる活躍を期待しての授賞。

さかいり きよこ
坂入 清子 殿（劇団新派 結髪）

1966 年劇団新派結髪部に入団。以降劇団新派の結髪を担当。戯曲に描かれた時代や地域の人物の状況、心情など色々な生き様を、結髪によってリアリティーを持たせる重要な役割を担う。特に明治、大正、昭和の時代の髪形においては、坂入氏の知識、経験、優れた技術により、的確に表現する唯一無二の存在である。坂入氏のこれまでの功績を高く評価し、今後更なる活躍を期待しての授賞。

たかみ かずよし
高見 和義 殿（照明デザイナー）

1982 年舞台製作会社クリエイティブ・アートスインク社に入社。林光政氏、原田保氏に師事、多くの研鑽を重ねた。2000 年に「アンナ・カレーニナ」、2002 年には「ピッチフォーク・ディズニー」作品で幾多の演劇賞を受賞。その後も余念のない研究、努力を続ける姿勢は舞台製作者や演出家から高い信頼を得る。氏を慕う後輩、若手スタッフは数多く、更なる指導育成に期待する。

高見氏の今後より一層の活躍を期待しての授賞。

おかもと よしつぐ
岡本 義次 殿（プロデューサー）

1971 年東宝演劇部に入社。蜷川幸雄演出作品で演出助手等のキャリアを積みプロデューサーの道を歩む。俳優、スタッフの要望を的確に把握した上で、実現性を図りつつ最大限の舞台成果を目指す製作姿勢は演劇関係者から厚い信頼を得ている。氏の下で育ったクリエイターや俳優は数多く、氏の功績が業界に与えた影響は計り知れない。岡本氏のこれまでの功績を高く評価し今後更なる活躍を期待しての授賞。

海外研修への助成

- (2) 1989 年に発足しました海外研修は、【研修者が欧米の演劇と文化に直接肌に触れることで大きな実績となる】との目的で 2019 年度までで計 29 回実施いたしました。研修参加者は延べ 551 名となりました。2020 年度 2021 年度は、感染症の為中止しました。2022 年度は予算計上しましたが、政府の渡航規制と参加者の安全性を考慮した上で、事業を取りやめました。

- (3) 新人脚本家養成のための助成

2022 年度は緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が当該地域に発出された時は休講とする条件で講座を開講しました。結果といたしまして、マスターコース、中級コース共にコロナ関連の休講はなく、共に全 12 回開催しました。

受講者数は、マスターコース 5 名 中級コース 12 名 計 17 名

第八回脚本募集

2019 年度に募集、2020 年度に審査、2021 年度に表彰の計画をしておりました脚本募集事業ですが、1 年遅れの 2021 年度に審査を終了いたしました下記 6 名の入選者が決定しております。表彰式は 2022 年 6 月 7 日（火）東京プリンスホテルに

て、開催されました定時理事会終了後、出席理事、監事の立ち合いの下、行いました。

授賞者及び授賞作品

最優秀作品 該当者なし

優秀作品	時代劇部門	篠崎隆雄氏	「深川永代戻り橋」
佳作	歌舞伎部門	山崎赤絵氏	「闇夜忍遠賀一族」
佳作	ミュージカル部門	大森匂子氏	「二人の孝女」
佳作	現代劇部門	柘植徳井氏	「親父」
佳作	現代劇部門	高柳育子氏	「三階楽屋の女優たち」
佳作	時代劇部門	浅見純氏	「笠売姫」

II 普及事業

(1) 半額鑑賞会

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会が共催している半額鑑賞会は低価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。

2022年度は政府の規制緩和があり少しずつではありますが公演数が増加しました。各劇場は、ルールに従った感染対策を行い、ガイドラインに則り安心安全の運営を行っておりますが、出演者の感染が確認され、急遽の公演中止になる事例が発生しております。また公演数の増加に伴い半額鑑賞会の取り扱いのウエイトが増える傾向となりました。

協会といたしましても各劇場と確認をしながら無理のないよう順次事業を取り組みました。出演者、スタッフ等の感染で公演中止が発生しましたが、2022年度は東京地区4回 大阪地区6回 名古屋地区3回 福岡地区10回 合計23回の事業を実施することができました。

東京地区	4回	29,245人	192,545,100円
大阪地区	6回	53,146人	286,476,750円
名古屋地区	3回	1,949人	10,998,250円
福岡地区	10回	11,808人	85,711,250円
合計	23回	96,148人	575,731,350円

(税込、観劇料金×販売枚数、公演中止による減額は含まず)

また、2023年4月時点、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人東京都民劇場、大阪府、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる協定書に調印いたしました。また、独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とは、普及事業に関わる取り扱い手数料について覚書に調印いたしました。

(2) 学生対象の演劇教室

加盟劇場の観劇と組み合わせ、学生を対象とした演劇教室の開催。若年層への演劇の普及を目的とする本事業につきまして2022年度は2019年8月以来3年ぶりに開催いたしました。今回一般公募を行い、大阪松竹座十月日本怪談歌舞伎、1月劇団前進座京都公演「雨あがる」の2作品を行いました。

両公演とも初めて観劇する学生、生徒が多く、松竹座では開演前に朝日新聞社文化部の向井氏の解説で歌舞伎の面白さや公演の見どころ等をアピール、前進座の公演では終演後舞台上で出演者によるワークショップを行いお芝居の楽しさを参加者に体験していただきました。

参加者は大阪松竹座100名 劇団前進座63名 となりました。

III. 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るため、62号、63号を発行いたしました。

会報は会員、賛助会員、所轄官庁、関係団体、演劇評論家、演劇記者、業界紙、舞台関係者等々に配布いたしました。

IV 調査事業

ロンドン劇場協会が作成した加盟52劇場で実施された一年を通じたボックスオフィスデータの調査結果とロンドン劇場協会提携会員の17の準会員劇場の主要事項を内容としている[Box Office Data Report 2018]の翻訳、編集。

ぴあ株式会社が事業委託を受けて作成する「ライブエンターテイメント市場調査報告書」の調査、編集。

ぴあ株式会社との「ライブエンターテイメント市場調査報告書」は進めることが出来ましたが、ロンドン劇場協会の「Box Office Data Report」につきましては、2019年版以降につきましてはロンドン劇場協会がコロナの影響で発行出来なく、事業展開を行うことが出来ませんでした。今後情報を取りながら、資料の分断をすることなく事業展開をいたします。

2022 年度事業報告の附属明細書

定款第 38 条第 1 項第 2 号に定める事業報告の附属明細書につきましては、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に記載すべき事業報告の内容を補足する重要な事項」がないため本年度は作成しておりません。

以上